

(GM20) ではあれから一ヶ月と半分。  
(GM20) 最初の二週間の後、一週間ごとに違う魔族に宛がわれた葦。  
(GM20) さまざまな形状の魔族を産み落としていった。  
(GM20)  
(GM20)  
(GM20) 【白衣の男】「さて、今日の実験だが、君の希望を聞いてみたい、あれから少し立つからね。」  
(GM20) そういつていつもと同じ事務的な口調で喋る白衣の男。  
(M07\_Sumi) 【葦】「ん～……そうだね～……えーと…」いつもの赤いポニーテールに制服姿で、何やら指折り数えて「あの子はもう産んだし、この子も……あ、そうだ」ややあってから、手をぼん、と叩き「私、まだ馬を試してないから、馬がいいな」  
(GM20) 【白衣の男】「馬型か、まだ初交尾が終わってない知性の少ない奴なら居るが……それでいいかね？荒々しいものになるぞ。」  
(M07\_Sumi) 【葦】「……今までに荒々しくない交尾って、あったっけ？」指折り数えていた交尾は全て、初めてのオークからこっち、どれもこれも荒々しいものばかりだったのを思い出しながら。  
(GM20) 【白衣の男】「ふむ、だが最低限の交渉はできたはず。」  
(GM20) 【白衣の男】「言葉も通じるかどうか。」  
(M07\_Sumi) 【葦】「それじゃあ、本当に獣とあんまり変わらないんだ……ふふ、どれくらい凄い交尾してくれるのかなー…今から楽しみ」男の言葉にも、不安になるところかうっとりするような笑みさえ浮かべて。  
(GM20) 【白衣の男】「ふむ、がんばりたまえ。」  
(GM20) んではオープニングシーンは終了。  
(GM20)  
(GM20)  
(GM20)  
(GM20) 第7番実験室、そこには一匹の馬型魔族が居る、背中には翼、そして額には角があり、黒いペガサスかユニコーンに見える。  
(GM20) そんな所に君は出て行った。  
(GM20) 【白衣の男】「それが32号だ、ほぼ知性は子供程度、性交もまだしたことが無い。」  
(GM20) 【32号】「……ぶるる……」君を見て多少びっくりしたような感じだ。  
(M07\_Sumi) 【葦】「つまり……我儘でできかん坊、って事かな？」  
(GM20) 【白衣の男】『多少臆病のようだが……魔族だ、欲望はあるだろう。』  
(GM20) 【白衣の男】『欲望が暴走すると……どうなるか。』  
(M07\_Sumi) 【葦】「とはいえあの様子だと、自分から、っていうのは考え辛いね……こっちから誘惑すれば、かな？」小首を傾げながら、馬型の魔族を見つめ。  
(GM20) 【白衣の男】『変われば変わる物だ。』  
(GM20) 【32号】「……ぶぶぶぶ……」とことごと近づいてきて君の体を嗅ぎ始める、好奇心は強いようだ。  
(M07\_Sumi) 【葦】「まあ、私のほうからアプローチすれば何とかかなと思う……あ、来た来た、よーしよし…ほら、私は怖くないし、大丈夫だよー？」近寄ってきた馬の顔をそっと撫でて。  
(GM20) 【32号】「ぶるる……」撫でさせるまま匂いを嗅いでいる。  
(M07\_Sumi) 【葦】「後は私の方で何とかしてみるから…案内有り難う」と、後ろに居る男に声を掛ける。  
(GM20) 【白衣の男】『わかった。』  
(GM20) そして君と魔族の二人だけになる実験室  
(M07\_Sumi) 【葦】「さて、と……一寸だけ、待ってね」と馬の顔をそっと撫でて、そして、しゅる、と衣擦れの音を響かせながら、着ている服を全て脱ぎ捨て「…さ、コレでよし、と…ほら、これがキミが今から犯して、孕ませる雌の身体だよ…」  
(M07\_Sumi) 赤いポニーテールを靡かせながら馬に再び近付き、その顔を大きな乳房でふにゅん、と包み、  
(GM20) 【32号】「……ひひんっ……」すびすびと鼻が動き雌の肌の臭いを嗅いでいる。  
(GM20) 葦の胸には魔獣の毛の滑らかな感触、以外にも綺麗で気持ちの良い感触が肌に当たる。  
(M07\_Sumi) 【葦】「ん、あん…キミって、キチンとお手入れされてるのかな？すごくいい感触……ほらほら、臭いを嗅ぐだけじゃなくて、ね？」既にツン、と硬くしこっている乳首を、馬の唇に擦るように押し当て、今までの妊娠経験で、そこからは甘いミルクの臭いを漂わせて。  
(GM20) 【32号】「……(すんすん)べりりっ……じゅるっ……ちゅぱちゅぱ」君の甘いミルクの臭いが漂う乳首に吸い付きすいたてる。  
(GM20) 【32号】「ジュルッ……チュッ……じゅるっ……ちゅっちゅじゅっ」どんどん吸う力が強くなり乳房が引っ張られるほどに  
(M07\_Sumi) 【葦】「きゃ…あふ、ん、あん、んくうんっ　ふふ、凄お…あ、やんっ、ふふ、私のおっぱい、気に入ってくれた？」痛い程の吸い付きにも、頬を染めてさらに乳房を突き出し、太股を早くも溢れ始めた蜜で濡らしながら、艶やかな笑みを浮かべて。  
(GM20) 【32号】「ふっ……ふっ……じゅるっ……(べりり)吸うだけでは飽き足らなくなったのが舌で乳房を舐め上げる。  
(M07\_Sumi) 【葦】「ふあ、あ、やんっ　おっぱいごとペロペロしちゃうなんて……少しは興奮してきたのかな？」大きすぎる胸は舐められるとたぶん、と重たげに揺れ弾んで、首を撫でながら、視線をなんとか馬の股間へと向けて。  
(GM20) 【32号】「ふんっ……ふっ……じゅる」べるべると胸を舐める魔族の股間には巨大なものが半分ほど持ち上がっている、大きさは完全に勃起していないのに葦の腕より尚太い。  
(M07\_Sumi) 【葦】「わー……もう私の腕より太い……あれで、完全に勃起したら……ふふ、私壊れちゃうかも…」ゾクゾクと身を震わせる。数週間で完全に倒錯した性的価値観を構築した少女は、人外の獣との交尾にこれ以上ない喜びを見出している。「それじゃあ…ちょっと、ごめんね？」乳房を舐める馬の顔をぼん、と軽く撫でて、身体の下に潜りこみ、半勃ちの馬ペニスにそっと両手の指を絡ませて。  
(GM20) 【32号】「ふっ……ぶるっ？」離れていく乳房を名残惜しそうにしながらいきなりつかまれた馬ペニスが震える  
(GM20) 【32号】「……ぶるるっ」気持ちが良いのか先走りが大量に出てくるが馬ペニスの間には垢が溜まっており不潔だ。  
(M07\_Sumi) 【葦】「大丈夫、痛くないから……ちゅ、ちゅっ　ん、凄い臭い……ふふ、コレは、こうして…っ」と　馬ペニスに溜まっている垢を、指先で大雑把に取り除き、「それじゃ、次は……れる、ちゅる、びちゃ、ふあ、んちゅ、る…ちゅぶ、ちゅ…」残った恥垢を、舌で綺麗に舐め取り、唾液で薄めてはコクン、と飲み込んで  
(GM20) 【32号】「ぶるっ！！……ぶるっ……」どんどん大きくなる馬ペニス、どんどん大きくなるが、やや柔らかい。  
(GM20) 魔族の鼓動にあわせてびくびくんと痙攣し、先走りもどんどん出てくる。  
(M07\_Sumi) 【葦】「ちゅ、んむう……れる、ちゅぶ……あは、大きくなってあんまり硬くならないのかな？　ふふ、でもお汁はいっぱい……ちゅぶ、んく、んっ…ちゅるちゅる…ちゅむ、くちゅ…ちゅううっ」両手で、まだまだ大きくなりそうな馬ペニスをやわやわと扱きながら、先端に口付け、溢れてくる先走りを、頬を染め、甘露を飲むように飲み下して。  
(GM20) 【32号】「ふごっ……ふご……ぶるるるっ！」ひときわ大きくなりすぎた血管が浮き出たがちがちとたかたかくなって。  
(GM20) 【32号】「……ふっ……ふっ！」前後に動かし始め葦の体に擦りつけ始める



股間から精液を零しながら馬を見る瞳は、忠実な雌馬そのもの。「ん...綺麗に、しますね.....んちゅ、ちゅぶ、れる、れるお...」馬ペニスに舌をねっとりと言わせ、唇で吸い付いて、愛液や精液の混ざり合った汁を舐めて清めて。

(M07\_Sumi) <口辱>で

(GM20)【32号】「.....ひんっ」そうしてやはり胸の谷間と口に入れるようにして前後させる。

(GM20) 未だまったく萎えない馬ペニスは魔族の獣性を示すようにしてどんどん黒くたくましくなっていく。

(M07\_Sumi)【葷】「ちゅぶ、れる...ちゅむ、ちゅ、ちゅうう.....ん、ちゅば.....あは、凄い...もうこんなにビキビキ...」雌を満足させる嬉しい馬ペニスに、柔らかな乳房と舌で、従順に、積極的にご奉仕して。

(GM20)【32号】「.....ぶひんっ!ぶひんっ!!」一回射精した後で高まっていたのかまた大量に射精する。葷の顔や胸にかかった以外にも大量に床に落ちてびちゃびちゃと床に落ちる。

(GM20)【32号】「.....ひんっ」葷の頭を前足で押さえつけて床にあわせる。まるで「こぼすな、舐めろ」と

(M07\_Sumi)【葷】「ふあ、あんっ.....ちゅぶ、ん、ちゅる、ちゅうちゅう.....あふ、出したばかりで、もうこんなに.....」熱い精の迸りを、胸と顔で受けてうっとりと言わせ、巨乳からミルクを零し、股間から注がれた精液をポタポタと零しながら、胸の谷間に溜まった精液を飲み吸い。

(M07\_Sumi)【葷】「きゃふっ.....あ、はい...ちゃんと、舐めますね.....んちゅ、れる、ぴちゃびちゃ...んく、ちゅるっ...」馬に命令されるがまま、床に零れた精液を、丁寧に舐め取っては飲み込んで。時折、馬ペニスにも口付けしながら、全ての零れた精液を綺麗に飲み込んでいく。

(GM20)【32号】「.....ぶるんっ」その卑猥極まりない行為に満足したように雌馬見下ろしながらまた怒張をギリギリと勃起させていく。

(GM20) では一言もらってシーンを切ります。

(M07\_Sumi)【葷】「ちゅぶ...ん、こくっ.....、綺麗に、しました.....だから...」そして、また手すりに捕まって、精液を零す割れ目を見せつけながら、誘うように尻を振って。

(M07\_Sumi) おっけー

(GM20) んでは、

(GM20)

(GM20)

(GM20)

(GM20)【白衣の男】『あれから6日。食事と排泄以外は交配しっぱなしとは.....恐れ入る。』

(GM20)【32号】「ひひんッ ひひん!!」魔族はより巧みになった腰使いで雌馬を犯している。もう出産も近いというハラボテの雌馬をさらに精液付けにするのだといわんばかりに腰を振る。

(M07\_Sumi)【葷】「あう、ひう、くううんっ あっ、あひいいいっ、あ、んきゅううっ、お、お腹あ、赤ちゃん、また、動いて...ふあ、あ、あっ、それ、いい、いい、よお...っ」既に臨月間近の膨らんだお腹を揺らしながら、快楽に蕩けた瞳で夫であり主人様でもある馬相手に腰を振って、悦びの声を上げて。

(GM20)【32号】「.....ぶひんっ!ぶひんっ」腰を激しく動かしながら葷の首筋を噛む。射精が近いことを教えるサインだが、「おねだり」をしないと絶対に中に射精してくれない。射精が大好きになった葷は毎日いやらしくおねだりの言葉を吐く。

(M07\_Sumi)【葷】「ひう、あ、ふああ.....お、おねがい、します.....淫乱な、腹ペテ雌馬の葷の、子宮、にい...っ、旦那様、の、熱いせいえき、いっぱい、注ぎこんで、くらはい...」サインの意味を理解しているからこそ、快感に蕩けた表情のまま、きゅ、きゅ、と何度も膣肉を締め付けながら、淫らな言葉を躊躇いもなく口にする。

(GM20)【32号】「ぶひひひひひん!!」いつもと同じ、子宮と胎児を破壊するような一突きの後より濃くなった精液をたっぷり射精する。葷にはねばっこい精液の音が聞こえるような気がするほど、どぶどぶと注がれる。

(M07\_Sumi)【葷】「あ、くるう...また、熱いの、いっぱい、いいい.....はひ、ああ、ひあ、ふあ、い、...っくうううううううんっっ」胎児を抱えた子宮に、たっぷり注がれる熱い精液。ここ6日の間にすっかり慣れて病み付きになった感触に、甘く切ない雌の鳴き声をあげて、熱い蜜壺は蕩けるような熱と膣壁をもって、馬ペニスを締め付け極上の快感を与えて。

(M07\_Sumi) <熱い蜜壺>でー

(GM20) あいさ。

(GM20)【32号】「ぶひんっ」こっそりと出した後、一週間で黒く淫水焼けした肉棒をいつものごとく四つんばいの葷の目の前に突き出す。

(M07\_Sumi)【葷】「ふあ、あう、は、あ.....ん、ちゅぶ、ちゅむ、くちゅちゅる.....ちゅば ん、んう.....む、うぶ...んっ」一度、子宮内に射精した後は、いつもこうして綺麗にする、それが習慣であり、雌馬としての役目となっていて、今も、丹念に舌を絡めては淫らな熱い瞳で馬ペニスを見つめながら口で綺麗にお掃除奉仕をして。

(GM20)【32号】「.....ひんっ」葷には聞こえた、愛しい主が「いいだろう、餌の時間だ」といった声を。

(GM20) 馬魔族はゆっくりと部屋の隅へ移動し部屋の隅にある粗末なボウルを加えてくと葷の前に置いた。

(M07\_Sumi)【葷】「.....あ、ごはん、食べていいんだ.....ありがとう、ございます...」目の前に置かれたボウルを跨いで、馬ペニスに頬擦りをして感謝の意を示し、そして「...ん、ふあ、は、あくうう.....ん、くううん...」指で膣穴をくちゅり、と広げると、力を入れ.....注がれた馬魔族の精液が、ボウルにポタポタと零れ落ち、あっという間にボウルを満たして。

(M07\_Sumi)【葷】「じゃあ...いただきます..... ん、ちゅぶ、ちゅる、んぐ、んくっ.....ごく、ごく.....んくっ...」そして、注がれた精液の殆どを出し終えてから、トロンとした表情で、ボウルに溜まった「食事」を吸いながら食べていく。

(GM20)【白衣の男】『馬の精液が主食になるとは.....魔族とヒロインの可能性はまだまだ広がるばかりだな。』

(M07\_Sumi)【葷】「んく...んぐ、ちゅる、ちゅるちゅる.....っ、ふあ、ん.....ごちそうさま、でした.....」ボウルを綺麗に舐め、一滴残らず吸い飲んで。「ふう...でも、ちょっと喉、渴いたかなあ.....」

(GM20)【32号】「.....」綺麗になったボウルを部屋の隅へ持っていきと再び怒張を葷の前に突き出す。そして少しずつ漏れ出すのは馬の尿。

(M07\_Sumi)【葷】「あ.....ん、ちゅ、むう...」馬ペニスの先端から零れだしたそれに、飲み物をくれるのだと理解して、唇を押し当て、漏れ出すそれをちゅるちゅると吸い取っては飲み込んでいく。

(GM20)【32号】「.....」少し息が荒くなり、尿の勢いも強くなるが雌馬を気遣っているのか飲めない量は一気に出ない。

(M07\_Sumi)【葷】「んっ.....んく、んう.....んく、こくんっ」瞳を閉じ、注がれてくる尿を零さないよう気遣いながら、ゆっくりと嚥下していく。

(GM20)【白衣の男】『我々が魔族を飼い、魔族がヒロインを飼う。やれやれ困ったものだ。』馬の尿を飲む美少女を見つつそんな言葉を出す。

(GM20)【32号】「.....ひん」そして尿の出が止まる。魔族が顔を近づけ葷の唇からこぼれた尿を舐めとる。

(M07\_Sumi)【葷】「ん.....ちゅ、あふ.....れる、う...」唇を舐める舌に、舌を絡めてしばしキスを楽しみ、そして静かに顔を離すと、頭の後ろに束ねられた赤い髪を揺らしながら、手すりに手を付き、お尻を突き出して「...お願い、します...また、私の子宮に.....一杯、ください...」

(GM20)【32号】「じゅる.....ひひんっ」満足げにうなずくとまた己の雌に怒張を突き入れる。

(GM20) こんな所かな?何か一言あればもらって墮落判定に行きますぜ!!

(M07\_Sumi) いや、さっきので全てさ!

(GM20) あいさ。

(GM20)

(GM20)

(M07\_Sumi) 目標はー / / / か

(GM20) 董が一匹の見事な子馬を生んだ時、出産した膣は精液まみれで子どもどろどろだった。

(GM20) そして『ぎりぎり正気』を取り戻した君はまた「白衣の男」の前に座っている。

(GM20) 【白衣の男】「かなり激しかったようだが・・・大丈夫かね、まあ戦闘データはとれなくとも貴重な魔族の飼育のデータは取れた。感謝するよ。」

(GM20) 【白衣の男】「さて・・・次の実験だが、次は触手あたりを考えているのだがどうかね？まあ私達としては32号に飼育され続けてくれれば飼育データの継続的取得もできるのだが。」

(M07\_Sumi) 【董】「...ふえ、ああ、うん.....まあ、ちゃんと協力はしないとだし.....戦闘データに関しても、ええ、そろそろ本腰入れていくから...」

(GM20) 【白衣の男】「まあ流石にそれは辛いだろう。」

(M07\_Sumi) 【董】「.....そんなの、はじめから決まってる.....32号に、飼ってもら...の...」

(GM20) 【白衣の男】「そうか、ならばその準備はすぐに取り掛かる。君は裸で32号の前に行けばいい、それと呼び捨ては怒られはしないのかね？」そう言って笑う。

(M07\_Sumi) 【董】「ふふ、そうかも...ちゃんと、旦那様のご主人様、って言わないとかな.....？」男の物言いに、くすっと小さく微笑み「.....でも、あそこで宿題とかは流石に出来ないから、その時だけは他の場所、貸してね？」

(GM20) 【白衣の男】「ああ、すぐ隣に小部屋がある。そこでするといい、まあ日常生活には不自由させるつもりはないよ。」

(M07\_Sumi) 【董】「至れり尽くせりで感謝するわ.....さて、それじゃあそろそろ行くね？」感謝感謝、と軽く拜んでから、赤い髪を翻らせるように立ち上がって。

(GM20) 【白衣の男】「ああ、雌馬にもどりなさい。」

(GM20) 【白衣の男】「そして一匹でも多く子を産んで欲しい。」

(M07\_Sumi) 【董】「分かってる。だって、それが雌馬の役目なんだし、ね...？」

(GM20) こんな所でしょうか。

(M07\_Sumi) ですねー

(GM20) では墮落判定をお願いします。

(M07\_Sumi) では目標4で、アイアンウィルも使って

(M07\_Sumi) 5d6+3 体力で

"(kuda-dice) M07\_Sumi -> 5D6+3 = [3,5,2,3,2]+3 = 18"

(GM20) 楽勝ですね。

(M07\_Sumi) まあ楽勝です

(GM20) あいさ、では調教刻印は「精液中毒」で良いですか？

(GM20) それしかないだろうとGMは思います。

(M07\_Sumi) 了解！

(GM20) ではお疲れ様でした。